

# 軽量、操作性、高感度の実現 極鋭中深場

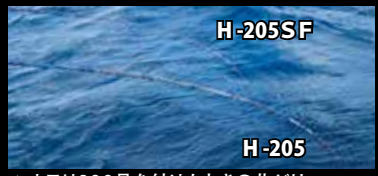
●3代目となる極鋭中深場は多様化するニーズに応じてオモリ300号までをテリトリーとしたHHタイプと新コンセプトSFを追加したことにある。とくにSFはオモリ200号をジャストサイズとし、他のモデルに比べて穂先を柔軟なスローテーパーとし、アカムツのゼロテン釣法などに適した調子に仕上げている。  
AGS、SMTの組み合わせは高感度を実現、電動リールに合わせたグリップ性能を追求したセンターグリップ採用のゼロシート、新バランス理論ESS、Vジョイントなど、軽量化はもちろん、すべてのモデルの操作性、感度を高次元で実現した中深場釣りハイエンドなロッドの誕生だ。11月発売予定。

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	適合クラブ サイズ	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
M-205	2.05	2	108	160	1.1/13.2	80-150	SS	86	68,000
H-205	2.05	2	108	185	1.3/13.8	120-250	SS	70	68,500
H-205SF	2.05	2	108	185	1.1/13.8	120-250	SS	69	68,500
HH-205	2.05	2	108	200	1.3/14.8	150-300	S	77	69,000



◀高感度SMT (スーパーメタルトップ) ▶元部には軽量、両脚のAGS

◀電動リールに合わせたグリップ性能、センターグリップ採用のゼロシート



H-205SF

H-205

▲オモリ200号を付けたときの曲がり



▲このサイズにはちょっと不満げな福田さん



## オモリ150号での誘い

**H-205** ◎操作性とバランスのいい7:3調子  
**H-205SF** ◎SMTを長めに取った柔軟な穂先

# シーボーグ500JP/JS



●中深海からイカ釣りなど汎用性の高い500番サイズの中型電動。パワー重視のJPとスピード重視のJS、2モデルをラインナップ、ターゲットに応じて選択できる。

■SPEC = ギヤ比3.6 (JSは3.7)、自重825g、最大ドラグ力23kg、標準巻糸量PE 4号500m、メーカー希望本体価格84,000円



▼終盤にきた2キロ級のアラにH-205が小気味よく曲がる

## 動画連動!



★当日の動画はダイワ「船最前線」よりご覧になれます。

オニカサゴというわけである。船長のこまめな移動が功を奏し、中盤になって田淵さんが1キロ級のアラ、40センチ級のオニカサゴを連発。サメやユメカサゴに辟易していた福田さんにも1キロ級のアラが顔をさせる。そして直後、田淵さんが大きく竿を曲げて2キロ級のアラをヒットさせた。

いよいよ時合かと思われたが、再びサメの猛攻で、本命が食う状況ではなくなり、やむなく12時に沖揚がりとなった。

船中では7キロ級のアラ、2キロ級のオニカサゴも上がっていたので、水温や潮具合でまだまだ有望と思われる一日だった。「新製品の特性を見せるには今一つでしたが、SFはこれから盛期となる銚子沖のアカムツには最適な調子です」と福田さん。「M、Hまで4種をラインナップしているの、中深場の様々なターゲットに対応しています」と田淵さん。

次回はアカムツで楽しみたいよと再戦を約束して釣り場をあとにした。

★福田さんが使用した極鋭中深場 H-205SFは新コンセプトのモデルだ

中深場釣りをより快適に  
軽さは感度「極鋭中深場」

# 福田豊起、田淵雅生 飯岡沖でアラ、オニカサゴを狙う

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.78

# 中深場最前線

at 九十九里飯岡港出船

★リニューアルした極鋭中深場で仲よくアラをゲット



★使用した電動リールはシーボーグ500JP/JS

★食い渡るオニカサゴは田淵さんの中型1尾に終わる

「より進化した極鋭中深場の登場です。今回のシリーズにはHタイプと新コンセプトモデルSFが加わっているのが特長です」と福田さん。一方の田淵さんは、「操作性、感度などあらゆる部分で進化した実感を味わえると思います」

今回、2人が釣行したのは飯岡沖のアラ、オニカサゴの両狙い、新製品には絶好のターゲットといえる。乗船したのは九十九里飯岡港の三次郎丸である。

4時に出船し、1時間半ほど走って飯岡沖水深130〜140メートル前後のポイントで釣り開始となる。福田さんは新コンセプトH-205SF、田

「より進化した極鋭中深場の登場です。今回のシリーズにはHタイプと新コンセプトモデルSFが加わっているのが特長です」と福田さん。一方の田淵さんは、「操作性、感度などあらゆる部分で進化した実感を味わえると思います」

今回、2人が釣行したのは飯岡沖のアラ、オニカサゴの両狙い、新製品には絶好のターゲットといえる。乗船したのは九十九里飯岡港の三次郎丸である。

4時に出船し、1時間半ほど走って飯岡沖水深130〜140メートル前後のポイントで釣り開始となる。福田さんは新コンセプトH-205SF、田

淵さんはH-205、リールは「シーボーグ500JP/JS」をそれぞれ使用、オモリ150号からのスタートだ。

2人は重いオモリを感じさせない軽快な誘いで釣り続ける。「中深場用としては驚くほど軽量、今回採用されたセンターグリップタイプのゼロシートはホールドしやすく、手持ち竿での操作性が一段とアップしました」と言いながら、福田さんはさっそく魚信をとらえるが、上がったきたのは残念ながらサメ。

船内ではギンギン組にポツポツと2〜3キロ級のアラがヒットするものの、エサ釣りはサメの邪魔が多い。「潮が流れていないんですよ、しばらく我慢ですね」

中盤からはやや深場のポイントに移動、潮が動き出したことでもあってオモリを200号に替えるよう指示される。

福田さんはゆっくり竿いっぱい誘い上げ、いったん止めて誘い下げ、底に着いたらゼロテンで待つ。まさにアカムツを狙う釣り方でもある。

「どちらかといえば底で仕掛けを安定させるゼロテンに向く竿なんです」

田淵さんは底を5回ほどたたき、誘い上げていく釣り方。上でアタればアラ、底でアタれば